

令和6年度 後期研究員 研究報告

議題と向き合い、お互いを尊重し合う児童の育成

～児童が主体的に話し合いに参画できる工夫と教師の適切なフィードバックを通して～



八重瀬町立東風平小学校
仲座 旦

これからの社会

予測困難な時代



グローバル化



技術革新



様々な変化

社会の課題



主体的

他者と協働



人間関係形成

社会参画

自己実現

人間関係形成



多様な他者と
人間関係形成

社会参画

学級や
社会への参画



学級活動

自己実現

夢や希望を持って生きる



これまでの実践



自分には関係ない

人任せ

~~児童自身が「話し合いたい」~~

~~自分事としての捉え~~

主体的



時間がない

課題

- 終末の教師の話を省く
- 教師のフィードバックによる話し合い活動への価値づけ





お互いを尊重

友達と協力できる

自ら考えて行動

主体的な活動

自分事

教師のフィードバック

議題決定の仕方

話し合い活動への
価値づけ



議題と向き合い、お互いを尊重し合う児童の育成

～児童が主体的に話し合いに参画できる工夫と教師の適切なフィードバックを通して～



1 特別活動において育成する資質・能力

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

特別活動編

平成29年7月

杉田(2017)

	知識・理解	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
人間関係形成	多様な人と協働して活動する意義の理解やその方法	お互いの意見の考えの違いを尊重し、互いのよさや可能性を生かす関係性をつくること	社会集団における人間関係を、自主的、実践的によりよいものへと形成しようとする
社会参画	自発的、自治的な集団活動の意義や活動を行う上で必要な合意形成するための方法	学級や学校の集団の生活の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ること	学級や学校の集団や活動に参画し、問題解決を主体的に解決することを通して、よりよい社会や生活を創造しようとする
自己実現	自己実現に必要な自己理解を深め、意思決定するための方法	自己のよさや可能性を生かし、自己の在り方生き方を考え、設計するなどの意思決定ができること	現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、目標を決めて取り組み、自己の可能性を拓こうとする

2 議題と向き合う児童の育成



(1) 議題選定の工夫

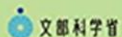
学級や学校における生活をよりよくするための課題は、**児童の発意・発想を大切にしながら、教師が適切な助言を行うことで課題発見の視点を与え、議題の提案につなげる**

小学校学習指導要領解説特別活動編

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

特別活動編

平成29年7月



文部科学省



問題意識を持って
話し合い



納得のいく
合意形成



2 議題と向き合う児童の育成



(1) 議題選定の工夫

子どもが願いや思いをもったとき、「みんな～しよう」と全体に呼びかけることを促す『条件づくり』は必要であり、**個人が全体に向けて声を出す場(システム)**を作り、**機能させる**。

橋本定男(1997)「子どもが力をつける話合いの助言」



表現しやすい環境づくり

全体に広げる場



2 議題と向き合う児童の育成

(2) 議題を自分事としての意識を高める

提案者の思いや願い



学級活動
「(1)生活づくりへの
参画」

学級活動
「(2)日常生活や
学習への適応」

学級活動
「(3)キャリア形成」

議題に関する経験や
問題の原因



3 お互いを尊重し合う児童

自分と異なる意見や少数の意見も尊重し、安易に多数決で決定することなく、折り合いをつけて集団としての意見をまとめることの大切さを理解する

小学校学習指導要領解説特別活動編

小学校学習指導要領(平成29年告示)解説

特別活動編

平成29年7月

橋本(1997)

~~無理強いする
合意~~

~~乱暴な
多数決~~



相手の意見を『理解』

3 お互いを尊重し合う児童

〈質問〉

- ・意見の内容やそこに込められている思いを確認。

〈よりよい解決策〉

- ・賛成・反対意見を述べる。
- ・それぞれの意見の違いを明確にしながから提案理由にあった意見にまとめる。



自分もよくてみんなもよい意見

一人一人の意見を大切

4 主体的に話し合いに参加できる工夫



加藤(1994)

- ・苦手意識がある児童も何か発言でき、自信がつく
- ・学級全体で話し合いへの参加意欲が高まる
- ・集中力のある生き生きとした話し合いになる

安心して
発言

お互いの意見のよさを認め合う

5 教師の適切なフィードバックについて

東京都特別活動研究会(2023)

よりよい集団や人間関係をつくる上で、『終末の助言』の工夫は欠かせないものである。話し合いや実践後に何を価値付けたかで、今後の集団や人間関係は大きく変化してくる

教師の話



終末の教師の話で取り上げる内容

ア 前回から成長が見られた言動

イ 議題、提案理由やめあてに戻って考えた発言

ウ 事前を含めた司会グループの工夫や努力

エ 友達、学級全体のことを考えた発言

オ 話し合いをまとめるような発言(合意形成)

カ めあてや前回の振り返りを生かした発言

キ 実践、生活への意欲付けや次時への期待

ク 次への成長のために気づかせたいこと

VI 授業実践

議題 「1年生のための交流会を開こう」

学級活動(1)「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決」



議題設定の理由

他学年とも交流して絆深めたい。
特に1年生との関わりが少なくなってきた。

1年生に学校のことを教えてあげたい



VI 授業実践

事前の活動

1/20(月)
放課後

【計画委員】

《社会参画》

1/21(火)
帰りの会

【学級全員】

《社会参画》

●提案者の児童の思いを確認し、議題を選定する。



1年生と交流したい

議題として..

●学級全員で話し合いたい議題について考え、決定する



話し合いたい!

VI 授業実践

事前の活動

1/22(水)
朝の会

●議題について自分たちの行動や課題について振り返る。

学級活動(2)で...

【学級全員】

《自己実現》



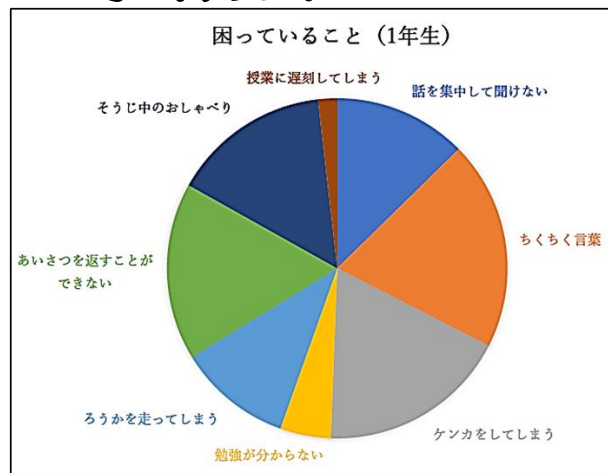
今の自分たちは

1/23(水)
朝の会

●学級会ノートに自分の考えを記入する。

【学級全員】

《自己実現》



1年生が困っていることは...

高学年として...

VI 授業実践

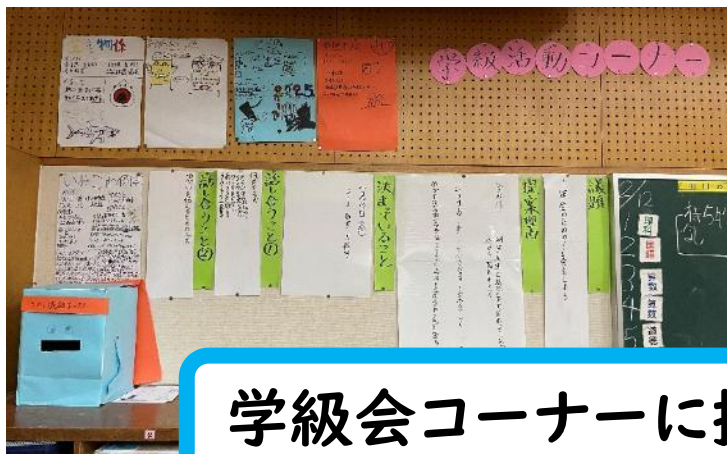
事前の活動

1/24 1/27
放課後

●学級会コーナーに掲示、シミュレーションを行う。

【計画委員】

《社会参画》



学級会コーナーに掲示



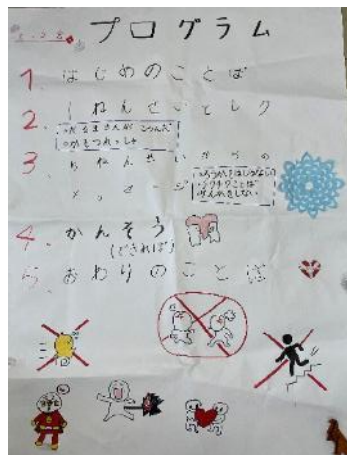
学級会のシミュレーション

1/28(火)
授業

●交流会当日のプログラムを決める。

【学級全員】

《自己実現》



レクは2つぐらい

伝えることは3つ
がいいかな

VI 授業実践

事前の活動

1/29(火)
授業

●グループで意見を出し合い、合意形成を図り、まとめる

【学級全員】

《人間関係
形成》



〈よりよい
解決策〉
・賛成
反対意見を
述べる

一人一人の意見を大切にする

〈質問〉

・意見の内容やそこに込められている思いを確認。



VI 授業実践

本時の指導

議題 「『1・5イチゴ』（1年生のための）会を開こう」

学級活動(1)「ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

本時のねらい

5年生として、1年生に伝えたいことや思いを伝える工夫について考え、**互いの意見のよさを認め合いながら決めることができる。**



VI 授業実践

本時の指導

話し合いの順序

1. はじめの言葉
2. 計画委員の自己紹介
3. 議題の確認
4. 提案理由やめあての確認
5. 決まっていることの確認

- ①日時…2月14日5時間目
- ②場所…5年1組教室
- ③レク2つ メッセージ3つ

- プログラム
1. はじめの言葉
 2. 1年生とレク
 3. 5年生からのメッセージ
 4. 感想（できれば）
 5. おわりの言葉

<p>ていあんりゆう 提案理由</p>	<p>今の様子… 学期は1年生と総合の時間はとてかかっていたが今はせんせんかかっている どうする… 1年生を安心させる1.5会として めざす姿… 最高学年としてお本になれるようにかんばる!!</p>	<p>なし。</p>
-------------------------	---	------------

VI 授業実践

本時の指導


話し合いの順序

6. 教師の話

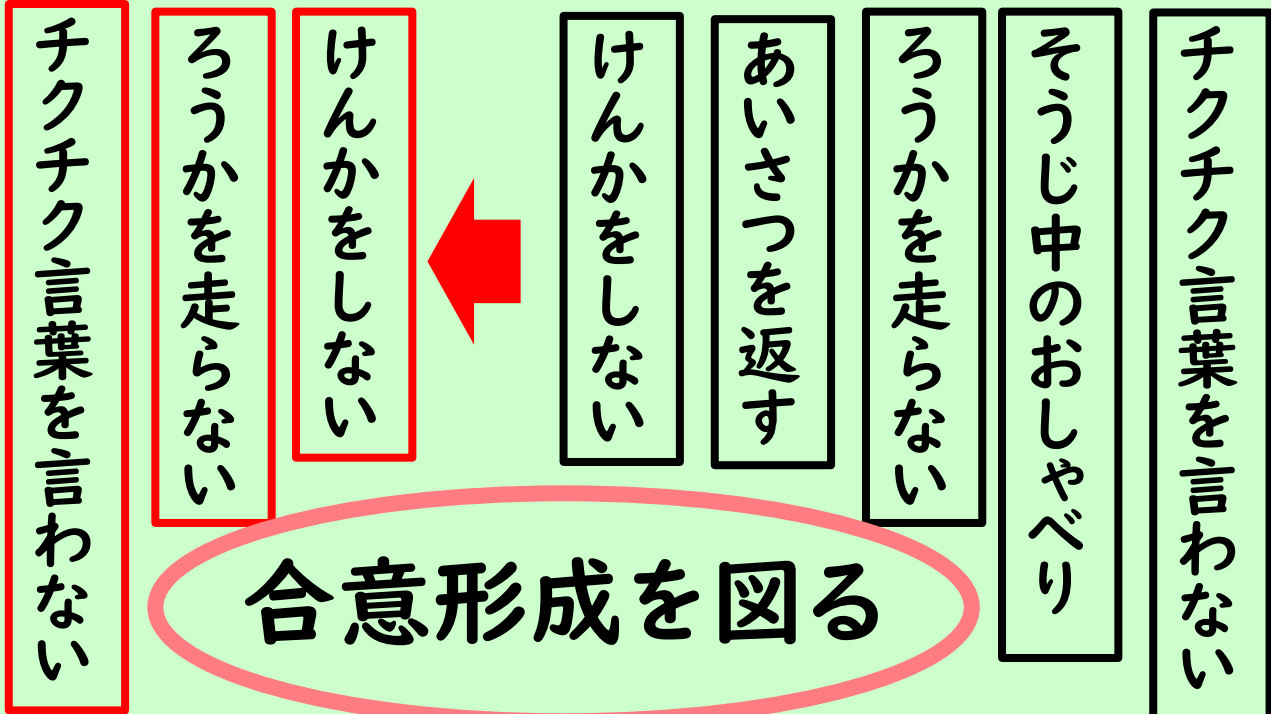


7. 話し合うこと① 『何を伝えるか』

2 話し合い活動で大切なこと



- (1) 議題についてみんなで考え、
みんなで話し合おう。
- (2) 友だちの意見や考えを大切にしよう。
- (3) 話し合ってきたことは、
必ずみんなで実行しましょう。



1年生のことを考えた発言



VI 授業実践

本時の指導

話し合いの順序

7. 話し合うこと②「伝えるための工夫」

ろうかを走らない

けんかしない

チクチク言葉を言わない



「何で伝えるか」

○劇 ○動画 ○Canva ○スライド

「伝えるための工夫」

○1年生に分かりやすい言葉をつかう

VI 授業実践

本時の指導

話し合いの順序

8. 決まったことの発表

9. 教師の話（フィードバックの場面）

終末の教師の話で取り上げる内容	
ア 前回から成長が見られた言動	イ 議題、提案理由やめあてに戻って考えた発言
ウ 事前を含めた司会グループの工夫や努力	エ 友達、学級全体のことを考えた発言
オ 話し合いをまとめるような発言（合意形成）	カ めあてや前回の振り返りを生かした発言
キ 実践、生活への意欲付けや次時への期待	ク 次への成長のために気づかせたいこと



提案理由やめあてを意識した発言

1年生のことを考えた発言

次の話し合いや実践活動への期待

10. ふり返り

11. おわりの言葉

VI 授業実践

事後の活動

1/31(金)
授業

●伝えるグループごとに分かれて役割分担、協力して準備

【学級全員】

《人間関係
形成》



ナイス!

お互いを尊重しながら協働

その考え
いいね!



VI 授業実践

事後の活動

2/14(金)
授業

●「1・5イチゴ会（1年生のための交流会）」を開く。

【学級全員】

《人間関係
形成》



みんなで協力し互いに支え合って運営



VI 授業実践

事後の活動

2/17(月)
授業

●一連の活動を振り返る。

【学級全員】

《自己実現》



1年生の10月に、お母さんと協力して、じかんびをこまに、1年生が、とておぼろひでんて、
 自分もこれか、おぼろひを思うことができてました。おぼろひが、1年生の10月に、
 グループのお母さんと協力して、おぼろひをとって、おぼろひが、おぼろひを思うので、自分も、おぼろひのために、
 お母さんと協力して、おぼろひを思うこと。

VII 研究結果と考察

1 議題と向き合う児童について



学級活動(2)での経験



提案したいこと「1年生と交流会をしたい」

みんなでやってみたい みんなで決めたい みんなで解決したい

理由

いままで1年生とかかわる事が^少いから、だから高学年として1年生のために

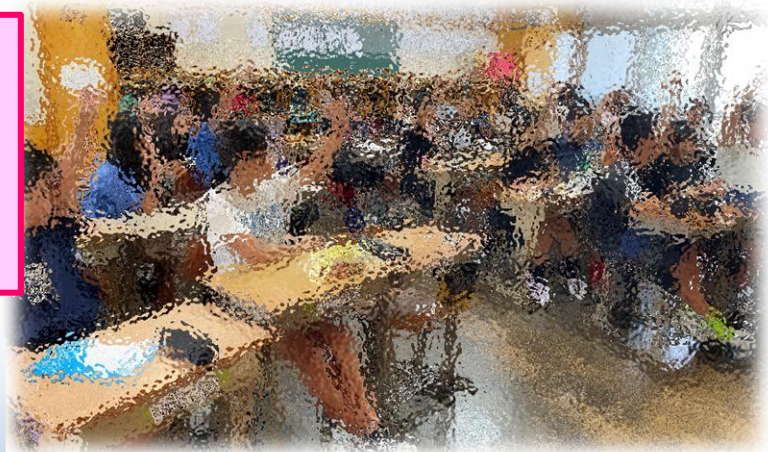
学校のルールなどを教えあげたいから、

他学年とも
交流したい

議題を自分事として捉え
話し合いへの意識が高まる

全体に広げる場

議題決定の場



VII 研究結果と考察

2 主体的に話合いに参画する児童の変容



いいと思う

議題について
話し合いたい

VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について

(1) 合意形成に向けての話合い

B見：「あいさつを返すがいいと思います。理由は、あいさつをしたら学校生活が気持ちよくなると思うからです。」

C見：「あいさつを返すもいいと思いますが、私は1年生の中には声を出すのが苦手な子もいると思うので別のものがいいと思います。」

～あいさつについて賛成・反対の意見を全体に聞く～

D見他数名：「あいさつに関しては心配な人の意見もあるので、反対意見のない「チクチク言葉を言わない」にしたらいいと思う！」

～司会が全体に確認後、全員が賛成し決定～



Ⅶ 研究結果と考察

③ お互いを尊重できる児童について

(2) 交流会に向けての協働的な準備



お互いの意見を尊重

お互いに支え合い協力

VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について

(3) 1・5交流会の実践と振り返り



1年生のために、みんなで協力して、じゅんぴをできたし、1年生と2年生のこどもで、

自分たちも、みんなの思いを聞いてあげたよ。 3年生、1年生のために、

グループのみんなと、協力して、お話をし、こどもたちが、お話を聞いたので、自分も、みんなのために、

みんなと協力して、お話をしようと思ってるよ。

**みんなで協力し
互いに支え合って運営**

VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について

(4) 教師の適切なフィードバック



発表ができない子をみんなで助け合っていた

相手の考えを受け入れながら話し合っていた



司会と副司会を助けられてうれしかった。これからも助けようとかん
ばろうと思います。1年生のためによくがんばりたいと思います。どうかをとって
1巻-んぎがうまいと思います。これで1年生を安心できると思います。

VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について

(4) 教師の適切なフィードバック



その意見もとてもいいと思いますが・・・

ここ
めっちゃ
いい!



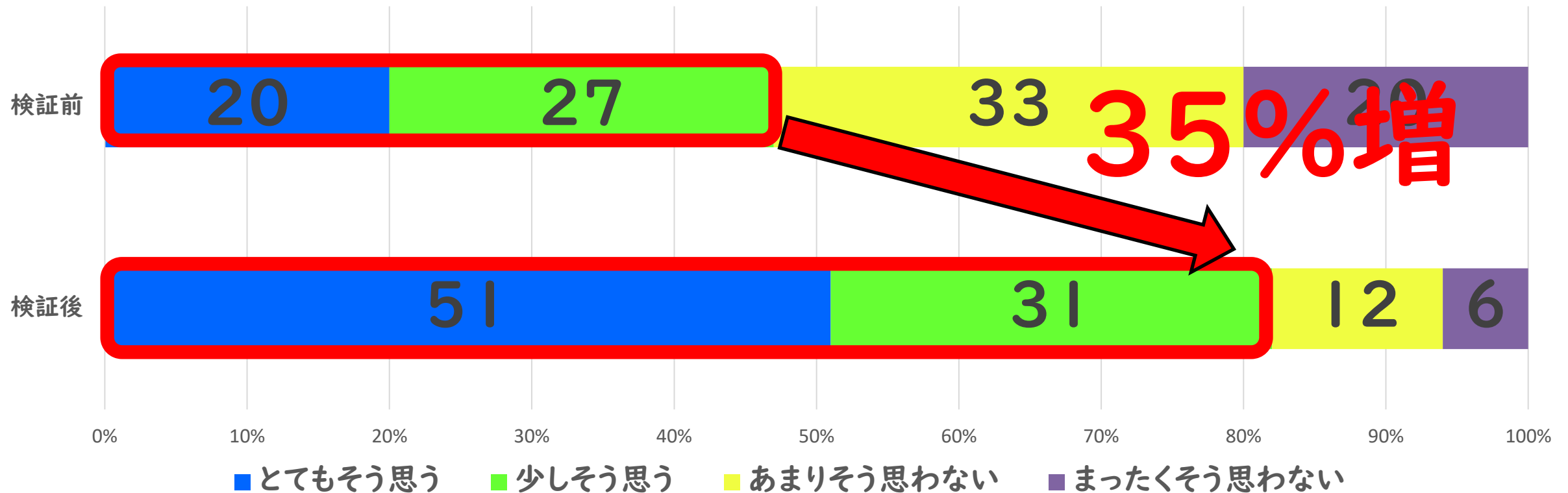
お互いを認め合いながら
協働

VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について

(5) QUテスト

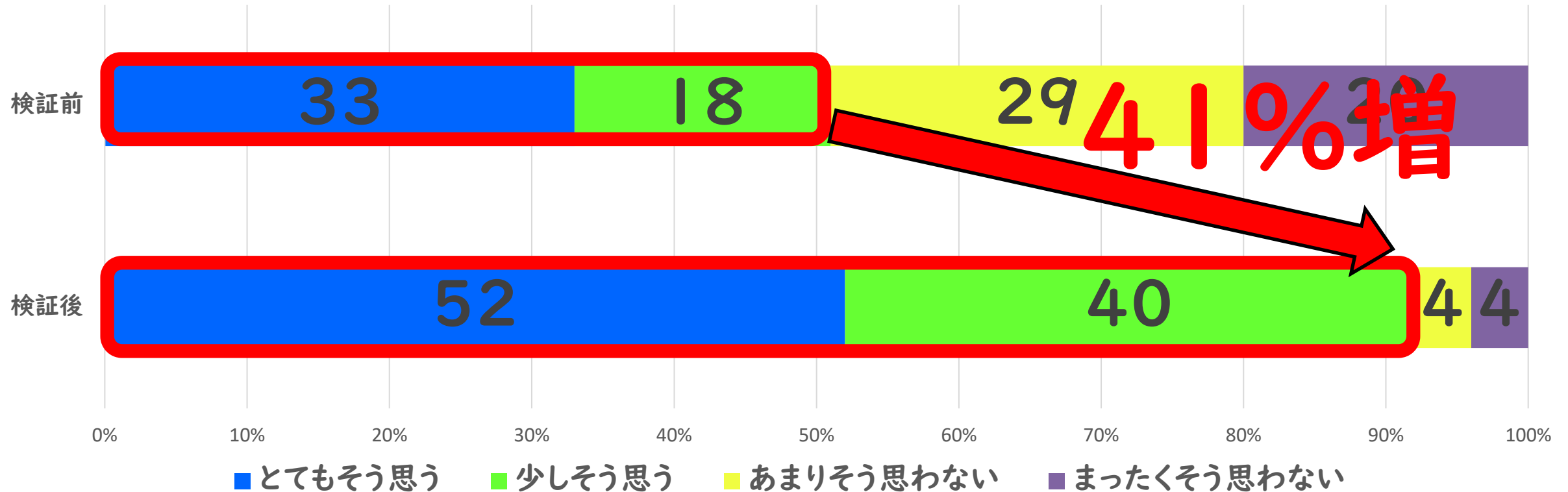
クラスはみんなで協力しあっていると思う



VII 研究結果と考察

3 お互いを尊重できる児童について (5) QUテスト

クラスの人とは声をかけたり親切にしたりしてくれる



研究の成果と今後の課題について

研究の成果

- (1) 児童の発意・発想を大切にし、学級全員で議題決定の場を設けたことで、児童が議題を自分事として向き合うことができた。
- (2) 相手の意見を理解し、それぞれの意見の理由を明確にしながらかし合うことで一人一人の意見を大切にし、お互いを尊重できる児童を育成することができた。
- (3) 友達のことを認める発言や行動を教師が適切にフィードバックすることで、児童同士の認め合う言動につながり、学級の支持的風土の醸成にもつながった。

研究の成果と今後の課題について

今後の課題

学級活動の時間だけでなく、他の教科等の授業での指導や日常生活の場でもお互いを認め合う場を数多く設定することや教師の適切なフィードバックの仕方を今後も研究していきたい。